

# 輝く功績

第76回岐阜新聞大賞受賞者

②

## 触媒、多孔質結晶で活路

人と環境に優しい「グリーンケミストリー」の概念に沿った医薬品合成を目指し、新規反応の開発に取り組んできた。触媒として多孔質結晶を用い、有用な反応を見いだしたほか、可視光照射で進行する光反応の開発にも挑戦した。労働人口の減少を見据え、ロボットを活用した研究の自動化にも取り組んでいる。「人と同じことはやりたくない」という思いで、オンラインワンの化学を目指して研究を続けてきた」と語る。

研究の出发点は、大学院時代。京都大大学院薬学研究所で、右型か左型の一方だけを合成する不斉合成の研究に取り組んだ。将来どのような研究に進むべきか悩み、当時の恩師に相談したところ、「こ

岐阜薬科大学教授

伊藤 彰近 さん

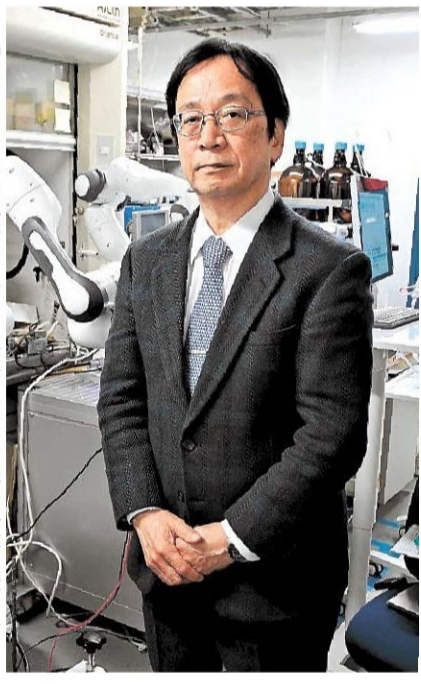
学術  
部門

研究の魅力を「全く何も見えない」という思いは一貫して見えない状態から、少しの光が見える」と語る。「ずっと黒だったものが、ある時一瞬で白に変わる。闇に葬り去られるはずだったデータが全て表に出てくる。その瞬間がすごく面白い。一度体感すると、この仕事をやめられない」と語る。

「人と同じことはやりたく

今後は「ロボット研究でや

りたいことがたくさん残っている」と話す。現在は画像認識技術を用いた研究に取り組んでいるが、音声認識や人間の手とロボットを同期させて遠隔操作する技術にも関心を示す。「もっと細かい操作ができるようになれば、ガスなど危険な物質に人が触らなくて済む」と語る。研究への意欲は尽きない。



「オンラインワンの化学を目指してやってきた」と語る伊藤彰近さん  
岐阜市大学西、岐阜薬科大

いとう・あきちか 1960年生まれ。84年岐阜薬科大卒業。86年京都大大学院薬学研究科修士後期課程を中途退学。同年岐阜薬科大合成薬品製造学教室助手。92年博士(薬学)学位取得(京都大)。講師を経て2007年から岐阜薬科大創薬化学大講座・合成薬品製造学研究室教授。名古屋出身。65歳。